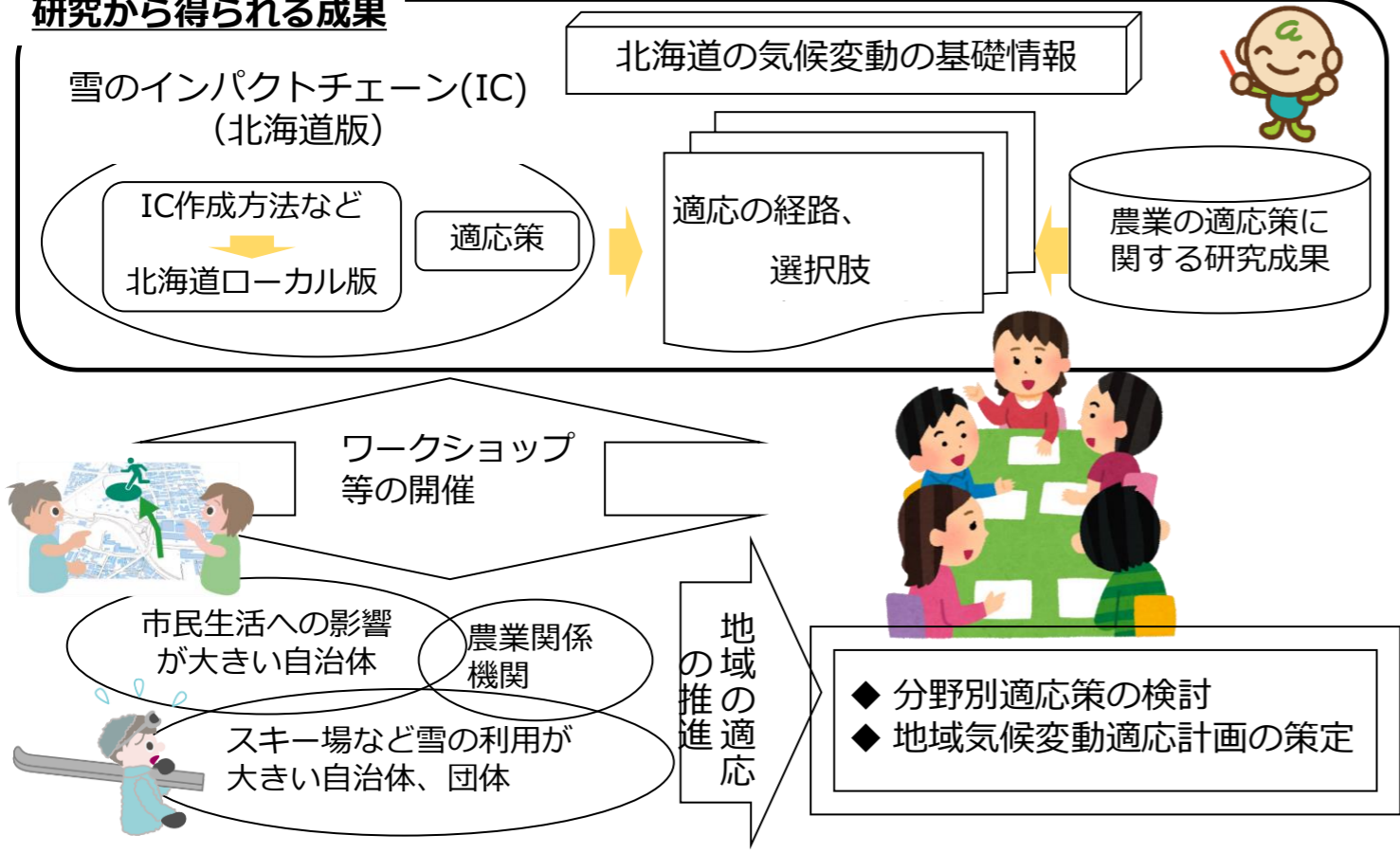


研究成果の社会実装に向けた取り組み

市町村の地域気候変動適応計画や、地域における適応策の検討に本研究成果を生かしていただくきっかけとするため、北海道内の市町村、団体・企業などと共に、計画策定のためのワークショップ等を開催します。

研究から得られる成果



ワークショップにご参加ください!! (2022年度を予定)

気候変動の適応策や適応計画の検討をどのように進めればよいか、参加者が理解を深める場になるよう、準備を進めて行きます!

お問合せ先 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所
 環境保全部 気候変動チーム (代表:野口)
 〒060-0819 札幌市北区北19条西12丁目
 電話: 011-747-3534



研究紹介

積雪寒冷地における気候変動の影響評価と適応策に関する研究

環境研究総合推進費 (R2~R4)



研究の目的

北海道に特徴的な雪に着目し、新しい手法・概念を導入しながら、生活・産業など、様々な分野での**気候変動に対する適応**について研究開発を行います。

なぜ研究を行うのか

○ 生活・産業に密接に関連する北海道の「雪」

道民にとって雪は恵みと共に災害ももたらす、「克雪」という言葉通り克服すべき対象でもあり、生活に産業に、密接に関連するものといえるでしょう。



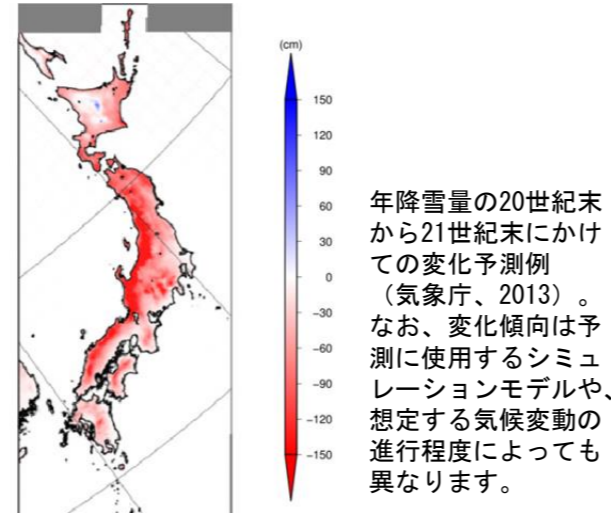
○ 気候変動が雪を変える？ 私たちへの影響は？

近年、豪雨災害など、地球温暖化・気候変動に対する不安が実感を伴うようになってきました。

既に北海道でも、気温の上昇や強い雨の増加が観測されており、今後、より影響が強くと予測されています。

雪についても、全国的には降雪量が減少傾向と予測されています。

北海道でも雪の量や質が変化すれば、北海道民の生活や産業にも様々な影響が及ぶことが予想されます。



○ 雪の変化への「適応」とは？

気候変動への対策として、温室効果ガスの排出量を減らすことは必要です。一方で、もう避けられない影響を防ぎ、順応していく「適応」の取り組みも重要です。

しかし雪の変化にどう適応するかという観点での検討は、まだ十分には進んでいません。

地域ごとに気候が大きく異なる北海道では、どこでどのように雪が変わり、どのような影響があるのでしょうか？ どう対応すべきでしょうか？

こうした問題に答えるため、環境研究総合推進費「積雪寒冷地における気候変動の影響評価と適応策に関する研究」により、北海道の降雪・積雪に注目し、気候変動の影響とその適応の研究を進めています。

私たちの研究で明らかにしていくこと

本研究では、北海道立総合研究機構、北海道大学、農業・食品産業技術総合研究機構、帯広畜産大学、国立環境研究所が連携し、以下のことを明らかにしていきます。



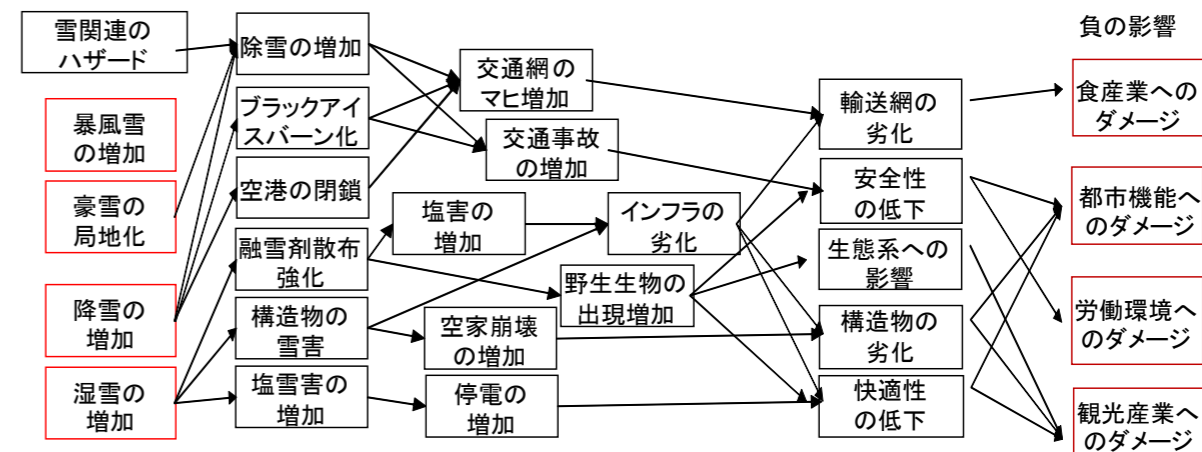
研究内容

- ① 北海道全体の雪に関する予測情報を、より細かな地域の影響予測に活かせるよう編集する。
- ② 雪の変化とその影響に関する情報を幅広く収集し、様々な分野における影響連鎖（インパクトチェーン）を構築する。また、代表的な影響連鎖について、適応策を検討する。
- ③ 農業分野における、圃場レベルでの影響評価と適応策について研究を行う。
- ④ 以上を北海道内の市町村、団体・企業、住民に提供し、地域適応計画立案等、気候変動適応の推進に資する参与型での支援に関する研究を行う。

現在までの情報収集と今後の方針

1. 雪の量や質の変化、大雪など降り方の変化に伴い、どこにどのような影響が及び、どのような脆弱性があるか整理し、それらの因果関係を「インパクトチェーン」と呼ばれる形で整理しています（右下の図）。
2. 今後は情報収集を進め、雪の変化に対する様々な分野への影響を整理していきます。
3. さらに、代表的な影響については詳細に検討し、具体的な適応策を計画に組み込む方法を提案していきます。

社会経済システムにおける気候変動影響の連鎖の例



影響の考えられる分野

- 食料生産
- 電気・ガス・上下水、
- 産業・雇用・経済
- 交通・輸送
- 建築物
- 環境